

タクシーに津波避難情報を配信

タクシー走行中に津波情報が流れた場合、運転手はどこに避難すればいいのか・・・
当法人が進めているタクシーにおける津波避難情報システムの社会実験が10月7日静岡県焼津市で行われました。

この実験は、日本郵便(株)平成26年度年賀寄附金配分事業の一環として、(株)アンビ・ア
(静岡県焼津市)の協力を得て、同社のタクシー、バス、ホテル部門の従業員を対象に進
めているものです。

この日は、タクシー2台に受信端末(iPad mini)を搭載、走行中に緊急地震速報、津波警
報が出され、表示画面の指示に従って、同社タクシー避難場所まで避難するというシナリ
オで行われました。

車という移動体を対象にした実験は初めてで、午後1時すぎに、タクシー無線室のパソコ
ンにセットしたシステム管理画面から緊急地震速報、津波警報(予想津波高3メートル)の
デモデータが流されると、タクシーの端末に、直ちに文字で情報内容が表示され、同時
に最寄りの適切な避難場所に向かう指示が出され、運転手は、標高7メートルあまりの避難
場所まで移動、到着と同時に避難完了ボタンをタッチして無事避難を連絡しました。

タクシーは、端末のGPS機能で常に追跡されていることから、移動の様子は、タクシー
無線室の管理画面に表示され、実験は予定どおりの成果を挙げ終了しました。



《 タクシー搭載の受信端末 (iPad mini) を操作中の運転手 》



《 受信端末 (iPad mini) 表示例 》